

わたしたちの社会と法				単位数	2単位
授業コード	12375	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	浅沼 友恵				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
生まれてから死ぬまで、わたしたちが関わる(あるいは、関わるかも知れない)さまざまな法制度を分かりやすく解説する。法学の基礎、裁判員制度に関わる基礎知識も学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	好みや感情によってではなく客観公平な目で正義を見きわめる力(legal mind という)を養う。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	法律の基礎や裁判員制度にかかわる基礎知識(刑法の基礎部分)の習得を通して正義や権利擁護について考えることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業を視聴して、レポートを提出していただきます。提出されたレポートの内容と期末テストを合わせて、総合的に理解度を判定します。			1/2	
2	単位の認定には全体の3分の2以上の授業レポートの提出と期末テスト(筆記式)により到達度に照らし評価を出します。			1/2	
3				1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I インTRODクシヨン 第1回 法とは何か・国法の体系 第2回 裁判の仕組み・裁判関連の職業 II 刑法と裁判員制度 第3回 刑法の基本理念・犯罪の成立 第4回 刑罰の種類 第5回 刑法の及ぶ範囲 第6回 裁判員制度・裁判員の守秘義務 III 人の誕生 第7回 “人”とは何か 第8回 嫡出・親権・後見について 第9回 未成年者と法 第10回 少年法と現代社会 第11回 子供の人権条約について IV 家族と法 第12回 婚姻の効力 第13回 夫婦別氏制度 第14回 夫婦の財産関係 第15回 離婚の効力					

<p>定期試験 第16回目に定期試験（筆記式）を実施する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 定期試験終了後、解答・解説します。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習はテキストの次回のテーマの部分に目を通すことを希望します（30分程度）。授業中はノートの取り方に工夫をしてください。特に説明なども書き加え復習しやすいノートの作成を希望します。（復習時間は1時間程度）試験前にまとめて復習しようとする多岐にわたる内容を網羅することが難しいため、その都度配布されたプリントやノートの内容を見直し定着をはかるように努めてください。また、日常生活の中でニュースや新聞、ネットなど関連する記事に注目してください。</p>
<p>必携書（教科書販売） <必携書> 『現代法学入門』（有斐閣双書）、伊藤正巳 加藤一郎、有斐閣 ISBN-13：978-4641112568 <参考書>すでに六法を所有している場合は購入不要。 『デイリー六法』、三省堂、2022年版 2022年9月下旬発行のため、ISBN番号は未定。</p>
<p>必携書（教科書販売以外） なし。</p>
<p>オフィスアワー 授業の前後に質問を受け付けます。</p>
<p>連絡先 Email:s8001@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 すでに六法を所有している場合は、再度購入する必要はありません。</p>

わたしたちの社会と政治				【単位数】	2単位
授業コード	12412	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	小田川 大典				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
標準的なテキストを用いて政治学の重要なトピックについて学んだ上で、文学作品を題材に現代の諸問題について検討することを通じて、自ら考え、判断し、責任を担っていく自立力を育成する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	現代政治の諸問題について基本的な知識を身につける。			知識・技能	
2	現代政治の諸問題について自分の議論を組み立て、適切に文章化できる。			思考・判断・表現力	
3	現代の政治についての知識をもとに、社会のさまざまな問題に主体的に取り組むことができる。			主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題図書『動物農場』についてのレポート(30%)			1/2	
2	教科書『女性のいない民主主義』についてのレポート(40%)			1/3	
3	最終回に実施する『ハーモニー』についてのレポート(30%)			2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			該当なし。		
実務経験の授業への活用方法			該当なし。		
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
【授業の予定】					
1. イントロダクションー「世界がもし100人の村だったら」					
2. 政治学入門(前半)ージェンダー研究の知見を踏まえて					
3. 政治学入門(後半)ージェンダー研究の知見を踏まえて					
4. 「民主主義」の定義を問い直す(前半)ージェンダー研究の知見を踏まえて					
5. 「民主主義」の定義を問い直す(後半)ージェンダー研究の知見を踏まえて					
6. 演習1: 課題図書ジョージ・オーウェル『動物農場』を題材に					
7. 「政策」は誰のためのものか(1)ー福祉国家は男女平等を推進するか?					
8. 「政策」は誰のためのものか(2)ー「男性稼ぎモデル」はなぜ変えにくいのか?					
9. 「政策」は誰のためのものか(3)ー政策の変化はどのようにして生じるか?					
10. 誰が、どのように「政治家」になるのか(1)ー女性議員の割合がふえないのはなぜ?					
11. 誰が、どのように「政治家」になるのか(2)ー女性議員の割合がふえないのはなぜ?					
12. 演習2: 前田健太郎『女性のいない民主主義』を題材に					
13. 伊藤計劃『ハーモニー』(ハヤカワ文庫、2010)前半					
14. 伊藤計劃『ハーモニー』(ハヤカワ文庫、2010)後半					
15. 演習3: 「経験機械」の政治哲学					

<p>定期試験</p> <p>期末テストは実施しないが、三回のレポートを課す。manaba folio を使って提出すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オーウェル『動物農場』についてのレポート（800字程度） 2. 前田健太郎『女性のいない民主主義』についてのレポート（800字程度） 3. 伊藤計劃『ハーモニー』についてのレポート（800字程度）
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>コメントを manaba folio で発表する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>（予習）この授業では毎回出席確認用の4択問題を課します。問題は事前に提示するので、予習段階では配布された資料を読み、その問題について、自分なりの答を考えてください（2時間）。</p> <p>（復習）この授業では毎回出席確認用の4択問題を課します。復習段階では授業の内容を踏まえ、解答してください（2時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p><必携書> 『女性のいない民主主義』前田健太郎, 岩波新書 『動物農場：おとぎばなし』, ジョージ・オーウェル, 岩波文庫</p>
<p>必携書（教科書販売以外）</p> <p>『ハーモニー』伊藤計劃, ハヤカワ文庫JA （※）『ハーモニー』には、上記の小説版以外に、コミックス版、アニメーション版がありますが、どれを鑑賞してくれても構いません。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>一、非常勤講師なのでオフィス・アワーは設けません。質問等は授業終了時か、下記のメールアドレスで受け付けます。 report.odagawa@gmail.com</p> <p>二、授業についての情報はすべて manaba folio でお知らせします。</p>
<p>連絡先</p> <p>report.odagawa@gmail.com</p>
<p>留意事項</p> <p>(1)配布資料と小テストはすべて manaba folio に事前にアップロードします。教室で印刷資料を配布することはありませんので、事前にダウンロードして、プリントアウトして持参するか、スマホ、タブレット、ノートパソコン等に入れて持参してください。資料提示はすべて教室のモニターやスクリーンを用いて行ないます。 (2)出席確認用小テスト、ミニレポートの提出は、すべて manaba folio 上で行ないます。 (3)原則として対面で実施しますが、講義動画を随時アップする予定です。事前・事後学習に活用してください。</p>

わたしたちの社会と経済				単位数	2単位
授業コード	12432	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	山本 由美子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>本授業では日本経済を、経済学の考え方や経済情報をもとに読み解きます。主なテーマはお金、物価、景気、経済成長、経済政策、為替、貿易、財政、雇用などです。経済時事問題も多く扱うため一般的な経済知識を身につけられ、就職活動や将来の仕事に向けた準備にもなります。過去の日本経済を事例になぜ経済はそう動いてきたのかを学んでいきます。またジェンダーの視点を通じて雇用や社会保障制度などを学ぶことで、少子高齢化が進んだ日本の将来を考えていきます。事例学習を通じて応用力を身につけることで社会・経済状況が理解できるようになります。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 将来社会人になったときに必要となる日本経済の基礎知識を習得し説明できる。			知識・技能	
2	2. 社会問題や経済の話題を自分の身の回りのこととして認識し分析できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題・レポート 55% (到達目標1, 2)			1/2	
2	中間確認試験 20% (到達目標1, 2, 3)			1/2/3	
3	期末試験 25% (到達目標1, 2, 3)			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>国際開発の分野でジェンダーと経済に関する政策スペシャリストとしてアジア地域事業に携わっていた経験から、経済学をジェンダーの視点でも分析し、また日本と他国の事例を比較検証していくことで、学生に「世界の中の日本」といった視点も持つように促す。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と経済の基本 2. 日本経済の全体像、戦後日本の経済成長 3. 景気循環の姿とそのとらえ方 4. アンペイドワークと女性の雇用 5. 雇用の変動と日本型雇用慣行の行方 6. 産業構造の変化と日本型企業経営の行方 7. 物価の変動とデフレ問題 8. 貿易と国際収支の姿 9. 円レートの変動と日本経済 10. グローバル化の中の日本経済 11. 財政をめぐる諸問題 12. 経済の鍵を握る金融 13. 格差問題を考える 14. 少子高齢化と社会保障 15. 人口構造の変化と日本経済 					
<p>授業は教科書の内容にそって進みますが、その他に時事問題を扱います。時事問題を扱う関係上、状況によっては予定が大幅に変更になります。</p>					

<p>定期試験 8週目に中間確認試験を、16週目に期末試験を行う。共に記述式の筆記試験。内容はその週の前までの範囲を中心に。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 ほぼ毎週の課題（主に週の授業内容確認が目的の小テスト）および中間確認試験は翌週の授業までにmanaba folioに模範解答を掲載するので各自見直し、復習。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 (予習)次週に予定されているテーマに関して教科書の該当部分を熟読し、質問等あればまとめておくこと。新聞を読み、特に社会・経済面のニュースに慣れ親しむこと。（約1時間）。 (復習)講義で学んだことをまとめ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る（約1時間）。 授業後に課された課題に取り組む。課題はmanaba folioへ提出。翌週の授業後にmanaba folioに掲載される模範解答を確認し、復習する（約1時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売） <必携書> 最新 日本経済入門 [第6版], 2020年, ISBN 9784535559028, 小峰 隆夫, 村田 啓子, 日本評論社</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <参考書等> 『女性と労働—貧困を克服し男女ともに人間らしく豊かに生活するために』 2017年. 日本弁護士連合会第58回人権擁護大会シンポジウム第1分科会実行委員会, 旬報社</p>
<p>オフィスアワー 授業に関する質問は授業後、メール、あるいはmanaba folioで受け付ける。メールを送るときにはタイトルに「清心」と入れるとともに、本文に学科・学年・氏名を記入。</p>
<p>連絡先 yumikoyamamoto@okayama-u.ac.jp</p>
<p>留意事項 履修するにあたり特別な配慮を必要とする場合は事前に相談すること。 講義での説明等に質問がある場合は、遠慮せず尋ねること。</p>

人材育成論				単位数	2単位
授業コード	12925	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	西井 麻美、青山 新吾、片山 裕之、紺谷 亮一、清水 純一、富岡 美佳、豊田 尚吾、西 隆太郎、林 泰資、深谷 信介、森 泰三、山根知子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>これからの持続可能な社会に向けたキャリアデザインや主権者としての自己形成に資する「社会（環境・経済など）」・「文化」・「教育・生涯学習・ESD」の分野にわたるホリスティックな学びを展開する。また、SDG4「質の高い教育をみんなに：全ての人への衡平な質の高い教育と生涯学習の機会を提供する」ことを意図して、大学におけるキャリア教育・リカレント教育として展開する。</p> <p>なお、この授業は、学科横断型科目として複数教員で担当する。また、特別講義講師を招き、アナウンス業務に従事してこられた経験を踏まえて「伝えることの大切さ」を一緒に考えながら、「伝える技術」について専門的に指導してもらう。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	持続可能な社会に向けた「社会（環境・経済など）」・「文化」・「教育・生涯学習・ESD」の分野における人材育成の考え方について説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	「社会（環境・経済など）」・「文化」・「教育・生涯学習・ESD」の分野における人材育成の手法を身につけて、自らのキャリア形成に活かすことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題提出 60%			1/2	
2	授業への参加態度 40%			1/2	
3				1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>○助産師としての臨床経験を活かして、学校現場でライフスキル教育を実践してきたことから学生に生きる力をはぐくむための実践活動について伝える。</p> <p>○新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導、鑑賞指導にあたる。</p> <p>○小学校教員としての勤務経験を活かして、学校現場の実際をリアルなエピソードとして学生と共有しながら、インクルーシブ教育についての対話を深める。</p> <p>○約30年間の7plus業務（大分の放送局で7年半、瀬戸内海放送で18年等）や青年海外協力隊員として2年、これらの経験から得た「伝えることの大切さ」、「伝え方」の極意、就職試験での面接やプレゼンテーションでも役立つ「伝える」技術を指導伝授する。</p> <p>○過去30年超、メーカー・シンクタンク・広告会社等にて、国内外の第一線級マーケティング・ブランディング・コンサルティング・デザイン業務に広範に関わ</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>【オリエンテーション・生涯学習・ESD】</p> <p>1. オリエンテーション・生涯学習・ESD：地域財から探る持続可能性「ストーリー」・・・西井麻美</p> <p>【社会（経済・自然環境・社会環境）】</p> <p>2. 経済：ウェルビーイング（よい生活、よい生き方）の実現、潜在能力の発揮・・・豊田尚吾</p> <p>3. 食：産学連携による食品機能性研究とフードビジネスの新展開・・・林 泰資</p> <p>4. 農業経済：世界の食料問題・・・清水純一</p> <p>5. 地理学：地図・GIS から地域の自然環境や社会環境を考える・・・森 泰三</p> <p>6. マーケティング：その深淵と功罪とこれからと・・・深谷信介</p> <p>【文化】</p> <p>7. 美術：専門家が教える美術鑑賞・・・片山裕之</p> <p>8. 考古学：発掘調査・遺跡調査の世界・・・紺谷亮一</p> <p>9. 文学・・・山根知子</p> <p>【教育】</p> <p>10. 人材育成：プロと一緒に考える自己紹介—自分にあった伝え方・・・小笠原ヒロ子</p> <p>11. 持続可能な未来をつくるライフスキル：ライフサイクルから見た課題・・・富岡美佳</p> <p>12. 多様性を育む教育・・・</p> <p>13. ライフスキル教育の実践プログラム・・・</p> <p>14. 幼児期の教育・・・西隆太郎</p> <p>15. インクルーシブ教育・・・青山新吾</p>					

<p>定期試験</p> <p>授業レポート 授業の中で使用するワークシート・課題レポート</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>留意点について解説する。(資料提示等)</p>
<p>準備学習(予習・復習)に必要な学修内容・時間</p> <p>参加型学習を取り入れるため、授業外学習として資料を読み要点をまとめること。(約30分) 参加した活動について振り返りを各自で行い内容をまとめること。(約30分) 課題として出されるものもあるので、十分な資料検索を行い内容を整理し記述すること。授業前に課題(新聞.yahooのニュース記事を読む。長所、短所を考えるなど)を伝えるので、家で実践してきてもらいたい。(約1時間)</p>
<p>必携書(教科書販売)</p> <p><必携書></p> <p>『ESDがグローバル社会の未来を拓く -SDGsの実現をめざして』西井麻美・池田満之・治部真里・白砂伸夫編著、ミネルバ書房、2020年</p>
<p>必携書(教科書販売以外)</p> <p><参考書等></p> <p>『持続可能な開発のための教育(ESD)の理論と実践』西井麻美・藤倉まなみ・大江ひろ子・西井寿里編著、ミネルヴァ書房、2015年(初版第2刷)</p> <p>その他、授業中に適宜紹介する</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>授業終了後教室で質問等を受け付ける。またはメールによる質問等を受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>西井：マナバ確定後、連絡用スレッドをマナバにたてる。 富岡：tomiokamika@gmail.com 豊田：toyota@m.ndsu.ac.jp 森：tmori@m.ndsu.ac.jp 林：yhayashi@m.ndsu.ac.jp 紺谷：kontani@post.ndsu.ac.jp 山根：t-yamane@m.ndsu.ac.jp 青山：saoyama@m.ndsu.ac.jp 深谷：s.fukaya@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>学生指導上、履修学生数を100人までとし、申し込み順で登録者を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西井担当授業は、オリエンテーションは、対面で行う。マナバフォリオも用いて授業を進める。授業方法を変更する場合は、事前にマナバフォリオで知らせる。 ●富岡担当授業は、原則対面で行う。授業方法を変更する場合は、事前にマナバフォリオで知らせる。 ●豊田担当授業は、原則対面で行う。授業方法を変更する場合は、事前にマナバフォリオで知らせる。 ●森担当授業は、原則対面で行う。授業方法を変更する場合は、事前にマナバフォリオで知らせる。授業中にスマホまたはパソコンを活用したGIS(地理情報システム)の作業をして、意見を共有することがある。 ●林担当授業は、原則対面で行う。授業方法を変更する場合は、事前にマナバフォリオで知らせる。 ●紺谷担当授業は、原則対面で行う。授業方法を変更する場合は、事前にマナバフォリオで知らせる。 ●山根担当授業は、時間割外の土・日曜日を利用した活動として行い、日程および対面かzoomかの方法については、事前にマナバフォリオで知らせる。 ●青山担当授業は、原則対面で行う。授業方法を変更する場合は、事前にマナバフォリオで知らせる。 ●深谷担当授業は、対面AL(アクティブラーニング)方式で行う。授業方法を変更する場合は、事前にマナバフォリオで知らせる。 <p>日程の関係上、授業開催順が変動する場合がある。</p>

世界の中のわたし				単位数	2単位
授業コード	18010	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	小笠原 ヒロ子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>本授業のねらいは、プロ通訳者の訓練方法を活用して、学生の英語運用能力の向上を図ることである。英語での授業の中で、どんどん訳出の作業をする。さらにペアワーク、プレゼンテーション、英語のナレーションを行い、自発的に英語を授業の中で話す機会を設ける。教材としては、英語の雑誌、新聞等時事関係の記事、audio library, Advanced Stories for Reproductionを多用する。これにより、普段学科で親しんでいる分野以外の分野での英語への露出を増やす。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	実際のビジネスの場での即戦力となれるほどの英語力をつける。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	英語での授業の中で、どんどん訳出の作業ができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3	ペアワーク、プレゼンテーション、英語のナレーションを行う			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	自発的な英語での発言を促すことにより、自主的に英語を授業の中で話せる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	普段学科で親しんでいる分野以外の英語を理解し、使うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	発表	50%		1/2/3/4/5	
2	定期試験	50%		1/2/3/4/5	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>通訳の実務経験を生かして、知識の伝達、非言語、ビジネス文化的情報も伝達していく。それにより、学生は社会に出たときのための実務的、精神的準備ができ、広く社会的慣行についても知識を得る。</p>					
日本語以外の言語による授業			英語		
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. サイトトランスレーション「Black Lives Matter」 プレゼンテーション ナレーションLesson 1 3. サイトトランスレーション「Black Lives Matter」 プレゼンテーション ナレーションLesson2 4. サイトトランスレーション「Fair Pay for Women's Soccer」 プレゼンテーション、ナレーションLesson3 5. サイトトランスレーション「Fair Pay for Women's Soccer」 プレゼンテーション、ナレーションLesson4 6. サイトトランスレーション「The Texas Freeze」 プレゼンテーション、ナレーションLesson5 7. サイトトランスレーション「The Texas Freeze」 プレゼンテーション、ナレーションLesson6 8. サイトトランスレーション「Native American Reservations」 プレゼンテーション、ナレーションLesson7 9. サイトトランスレーション「Native American Reservations」 プレゼンテーション、ナレーションLesson8 10. サイトトランスレーション「How to tip in America」 プレゼンテーション、ナレーションLesson9 11. サイトトランスレーション「How to tip in America」 プレゼンテーション、ナレーションLesson10 12. サイトトランスレーション「The Opioid Crisis」 プレゼンテーション、ナレーションLesson11 13. サイトトランスレーション「The Opioid Crisis」 プレゼンテーション、ナレーションLesson12 14. サイトトランスレーション「Sesame Street: Not Just ABC's」 プレゼンテーション、ナレーションLesson13 15. サイトトランスレーション「Sesame Street: Not Just ABC's」 プレゼンテーション、ナレーションLesson14 16. フィードバック、ナレーション発表 					

<p>定期試験 定期試験として、英語から日本語への翻訳の提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 16週目に試験の解説、フィードバックをする。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 事前に配る翌週のプリントの予習をし、授業でスムーズに訳出できるように準備してきてください。ナレーションは録音して、Manabaにアップロードしてください。 1~2時間</p>
<p>必携書（教科書販売） 使用しない。</p>
<p>必携書（教科書販売以外） なし</p>
<p>オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。</p>
<p>連絡先 s8022@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 Practical Communication IA, IBの授業形態はほとんど同じですが、教材としてTime, Newsweek, CNN等の取り上げる政治、経済、環境など様々なトピックスを扱うので、毎回授業内容、教材は異なります。 授業に辞書持参のこと。平素から時事問題に興味をもって接しておいてください。</p>

ことばと社会				【単位数】	2単位
授業コード	18035	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	高阪 香津美				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
日本に暮らす外国人がどのような分野でいかなる課題を抱えながら生活をしているのか、その課題をどうすれば解決することができるのかについて主体的に学び、考えます。また、このテーマは、今、この瞬間も議論がなされ、動いているものであるため、常に、社会の動向に目や耳を傾け、ニュースや新聞記事も扱います。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	物事を批判的に捉えることができる。			思考・判断・表現力	
2	多文化化する日本社会で起きる様々な事象を説明することができる。			知識・技能	
3	授業内容や自らが調べたことをつなげあわせ、課題解決のための方法を考えることができる。			思考・判断・表現力	
4	自分の身の回りで起こっている事柄に関心を持つことができる。			主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	小テスト (20%)			2/4	
2	毎回の授業後に提出が求められる平常課題 (20%)			1/2/3/4	
3	日本人と外国人児童・生徒がともに学べる活動案の作成課題 (20%)			3	
4	期末試験 (40%)			1/2/3/4	
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1 本授業の進め方、評価、課題に関する説明、日本語教育能力試験の紹介、教授者の自己紹介 2 日本に暮らす外国人、多言語・多文化化する岡山県の現状 3 外国人住民のことばの問題と「言語サービス」、多言語表示 4 やさしい日本語に関する基礎知識 5 やさしい日本語活動 6 コミュニティ通訳(主に医療通訳) 7 高齢化する外国人と介護を担う外国人 8 外国人児童・生徒に対する教育的課題 (1) 日本の学校 9 外国人児童・生徒に対する教育的課題 (2) 外国人学校 10 外国人児童・生徒に対する教育的課題 (3) 不就学・母語喪失 11 外国人児童・生徒に対する教育的課題 (4) 帰国後の(再)適応 12 問題演習による本分野の知識の定着(日本語教育能力検定試験) 13 多文化化する社会における日本人児童・生徒を巻き込んだ教育 14 多文化化する社会における日本人児童・生徒を巻き込んだ教育(フィードバックと全体共有) 15 今学期の総復習 					

定期試験 ・16週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法 小テストについては、実施直後に答えあわせと解説を行う。 期末試験については、模範解答をmanabaで掲示する。 その他の提出物については、授業内でフィードバックを行い全体で共有する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎授業後、今週の授業、ならびに、次回の授業に関係する内容を問う平常課題を出すため、準備学習が必要である。なお、予習・復習のための準備学習には目安として30分を要する。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） 教科書は用いず、資料を配布する。 参考図書については、適宜、授業中に紹介する。
オフィスアワー 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 katsumikosaka@hotmail.com
留意事項 ・身の回りで起こっている事象に関心を持ち、常にアンテナを張っておくこと。 ・小テストを欠席しても、配慮を要する理由と判断されるもの以外は別日にテストは行わない。

キャリアデザイン基礎				単位数	2単位
授業コード	18040	科目ナンバリング	150Z0-1200-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	中西 由美香				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を身につけ、社会人として自立していくことができるよう「自己」「企業」「社会」の3方からキャリア形成していくために必要な基礎的な考え方・方法を学ぶ授業です。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	自分自身を理解し、他者に対して効果的に伝えることができる			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	社会の現状を知り、具体的なキャリアをイメージできる			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	今後の課題を見つけ、大学生活について目標を持つことができる			主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー 70%			1/2/3	
2	期末レポート			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
多様な業種・業界での実績を活かして、社会の実態を踏まえた授業展開を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 オリエンテーション(キャリアをデザインするとはどういうことか) 2 「働く」ことについて考える 3 多様な職業を知る 4 業界・企業を知る①(企業分析) 5 業界・企業を知る② 6 企業が求める人材とは 7 ゲストスピーカー(実態を知る) 8 就職と無縁ではない社会情勢について考える 9 仕事観と働き方の変化について考える 10 働くためのルールを知る 11 自己理解を深める① 12 自己理解を深める② 13 自己アピールをする 14 大学での学びを考える 15 総括					

定期試験 期末レポートを提出
試験のフィードバックの方法 リアクションペーパー等でフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） 特になし。必要に応じて資料配布あり。
オフィスアワー 授業についての質問等は、授業後受け付けます。
連絡先 s4055@m.ndsu.ac.jp
留意事項

キャリアデザイン発展				単位数	2単位
授業コード	18050	科目ナンバリング	150Z0-2300-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	神崎 充				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>本授業では、国際化や技術革新の波の中で激変している社会の現実を広く知るとともに、その時代を生き抜くキャリアを支える意識・知識・行動の本質を学ぶ。教科書的に用意された答えを知るのではなく、正解のない問題に対して自分で考え、判断し、責任を持って答えを出すことの厳しさと面白さを知り、将来に渡るキャリアデザインへの仮説を形成する。授業の中では具体的な事例への考察を繰り返し、「キャリアを描く(デザインする)」とはどういうことか?に気づき、「キャリア」を自らの責任で描き、自立して生きるための力を強化する。</p> <p>授業形式は講師による講義を基本とするが、実践的な学びを獲得するために、社会人としての課題解決を支える技術を実技について伝授・演習することもある。また、経験豊富な社会人をゲストとして招聘し、その仕事内容や課題認識、キャリアへの考え方等を直接学ぶ機会を複数回設けるほか、生徒同士のディスカッションによって他者との切磋琢磨、協働によるアクティブな学習スタイルを随時組み込んでいく。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	キャリア形成の基本要素について理解している。			知識・技能	
2	キャリア形成の前提となる社会環境の変化について未来を洞察し、仮説をもつことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	他者の考えに対して謙虚に耳を傾け、尊重しながら受け止めたうえで、自らの意見を的確に表明することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4	正解がない課題に対して自ら考え、判断し、仮説のもとで行動を積み重ねる思考・行動力を獲得する。			思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー (30%)			1/2/3	
2	期末レポート (70%)			1/2/3/4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>かつて10数年に渡って株式上場を含む経営変革期を駆け抜けた企業構成員としての職務経験。さらに独立起業し、約20年に渡って経営とキャリアの切り口を融合させた独自の人材育成事業を創造してきた経営・プロフェッショナル職業人としての実務経験を活用する。事業をゼロから立ち上げた経営者であると同時に、経営・キャリア支援の専門家でもある立場から多様な業種・業態でのキャリア・経営問題と向き合ってきた経験を活かし、複雑な現代社会のあり方を紐解き、キャリア形成の本質にアプローチする。学生がその理解のもとで自律的にキャリアと向き合い、創造し、デザインすることを促していく。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> キャリアデザイン概論と本講義における学びの構造 本授業で駆使する思考法と情報伝達スキル(解説と練習) キャリアデザインのための自己理解Part1. 「事実」の振り返りと意味づけ キャリアデザインのための自己理解Part2. キャリアアンカーの探索 キャリアデザインのための自己理解Part3. 自分の強み・弱みの把握と言葉化 キャリアデザインのための社会洞察Part1. 社会環境を読み解く視点 キャリアデザインのための社会洞察part2. 価値を失わない「仕事」 キャリアデザイン事例講義(1)(社会人ゲストによる講演) 8の講演を踏まえたディスカッション キャリアを支える「生きる力」への構造的理解 キャリアデザイン事例講義(2)(社会人ゲストによる講演) 11の講演を踏まえたディスカッション キャリアデザイン事例講義(3)(社会人ゲストによる講演) 13の講演を踏まえたディスカッション 本講義全体の振り返りと自らのキャリアデザイン 					

<p>定期試験 最終授業終了後にレポートを提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 manabaの掲示板等にレポート全体の傾向を踏まえたコメントを掲載することでフィードバックを行う。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 講義で示される「次回予告」及び「事前に予習しておくべきこと」について、情報収集や考察による準備を1時間程度行っておくことが望ましい。情報収集手段は、インターネット検索で事足りるケースが多いが、内容によっては新聞・関連書籍・周囲の知人・友人へのヒアリングが効果的な場合もある。また、各回の講義後は、講義内容を振り返り考察する時間を30分程度確保することを推奨する（リアクションペーパー記入を含む）。</p>
<p>必携書（教科書販売） 使用しない。</p>
<p>必携書（教科書販売以外） 必要に応じて資料配布、manabaでの配信によって対応する。</p>
<p>オフィスアワー 質問はメールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 s8346@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ゲストとして招聘する社会人の方々は学生への応援の気持ちで多忙な中協力してくださっている。そのことを忘れず、一人の大人としての礼節と感謝の気持ちをもって話を受け止め、少しでも多くのことを学んで欲しい。</p>

ボランティア実践I				単位数	2単位
授業コード	10265	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	中井 俊雄				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	3 実験・実習・実技				
本授業の概要					
<p>自分たちの身の回りで行われている多様なボランティア活動は、社会の様々な課題を背景として行われています。この授業では、ボランティア活動の概念・歴史・社会的意義、活動する上で気を付けなければならない原則やルールなど基礎的な知識を学びます。さらに、体験学習やその後の振り返り等を通して、自らの考え・価値観を言語化し、ボランティア活動への理解を深めます。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	ハンセン病患者や生活困窮の状況にある方々のおかれている状況など、普段あまり接することのない情報や場面に接することで視野を広げ、他者への的確な理解と配慮に基づいた判断と対応ができる力を身につけることができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	初対面の当事者や関係者の方々に共感的態度で接し積極的に学ぶことができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	社会的背景や歴史的問題について考えを述べるができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	様々な社会ニーズに対して自分なりの改善策を述べるができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	ボランティア活動の原則やルールを理解し、体験活動を通じてボランティア活動の意義や目的を言語化することができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義及び体験学習への参加態度 80%			1/2/3/4/5	
2	レポート 20%			1/2/3/4/5	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>社会福祉協議会で地域福祉活動を実践した27年間のうち、ボランティアセンター、権利擁護センター、生活困窮支援センター等での経験を活かし、ボランティアの基礎的な知識と当事者の理解、必要な価値観等を醸成し、ボランティア活動の今日的意義について理解を深める。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I 講義・演習					
<ol style="list-style-type: none"> はじめてのボランティア あなたのまちでやさしさをひろげるために：思いやりの力、つながる力 あなたのまちでやさしさをひろげるために：支えあう力 ボランティア・NPO活動 ボランティア活動を始めるために 赤十字活動とボランティア 災害とボランティア 国際支援活動とボランティア 					
II 体験学習(予定)(順不同)					
<ol style="list-style-type: none"> 瀬戸内市長島 島内史跡めぐり 愛生園歴史館他 国際協力NGO AMDA(アムダ)グループ訪問(岡山市内) 岡山県ボランティア・NPO活動支援センター訪問(岡山市内) 					
III ボランティア実践まとめと最終レポート					

定期試験 課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）普段から報道等で日々のニュース、時事問題の情報を得ておくこと。 （復習）毎回の授業でその都度必要な参考図書、参考ホームページ情報を紹介する。これらの事前、事後の学習に各1時間程度要する。
必携書（教科書販売） 使用しない
必携書（教科書販売以外） 特になし
オフィスアワー オフィスアワー 木曜日1・3時限 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 nakai@m.ndsu.ac.jp
留意事項 学外体験学習では、瀬戸内市長島他様々な場所を訪問しますので交通費が必要になります。 学外体験学習については、土曜又は日曜に実施となる見込みです。予定については授業時にお知らせします。

アジアと平和を考える				単位数	2単位
授業コード	10295	科目ナンバリング	160Z0-2340-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>わたしたちが生きているこの社会は、背景、信条・価値観、アイデンティティなどが異なる多様な人々によって構成されている。しかし社会の制度は、多数派が少数派という以外にも、優勢・劣勢、中央・周縁、支配・被支配といった関係性を備えていることがある。</p> <p>本科目のねらいは、日本において「マイノリティ」を自認したり、そのように括られたりする傾向にある人々の生（歴史と現状）を通じて、社会にある抑圧や排除の問題への理解を深め、多様な人々が同じ社会のなかで共に生きていくための方法を探究することにある。授業では、各テーマと関連するドキュメンタリーを多く視聴する予定である。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	自分とは異なる他者が置かれた状況について、他者の立場を踏まえて説明することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
2	取り上げたテーマ間の関連性と共通性を考察することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	授業で学んだ以外の知識・情報を書籍や新聞記事から主体的に調べ、授業に臨むことができる。			知識・技能/主体性	
4	自分の気づきや考えを他者に伝わるよう言語化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度およびディスカッション 20%			1/3/4	
2	リアクションペーパー 40%			1/2/4	
3	期末レポート 40%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ①ントロダクション 2. ②国民国家と「マイノリティ」 3. ③居住民族と少数民族 4. ④グローバル化とナショナリズム 5. ⑤特権と差別を考える 6. ⑥イス 7. ⑦ガレと「部落」 8. ⑧囚間の「優劣」とハンセン病 9. ⑨囚間の「優劣」と「障害」 10. ⑩セクシュアリティとジェンダー 11. ⑪外国にルーツを持つ人びと 12. ⑫在日コリアン、華人・華僑、「無国籍」者 13. ⑬中国残留日本人 14. ⑭「マイノリティ」と「マジョリティ」を問いなおす 15. ⑮まとめ 					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法 メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）新聞や雑誌でテーマについて関連する記事を調べ、読む（30分）。 （復習）講義内容を確認、整理するとともに、紹介された書籍を読む（30分）。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <参考書> 佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020
オフィスアワー 質問、相談は随時メールで受け付けるが、必要に応じて面談の時間を指定する。
連絡先 okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・受講者を30名程度とする。定員を超える場合は4年生を優先とし、それ以外の学生は抽選とする。 ・コロナ禍による授業形式への対応や、特別講義講師の招聘が新たに可能になった場合、授業スケジュールに変更が生じる可能性がある。 ・高校までのような体系的知識の伝授を目指す科目ではないため、受動的に授業に臨むのではなく、授業で取り上げる事柄について書籍や新聞記事を自分なりに調べ、考えを深める癖をつけること。

「いのち」と「暮らし」の倫理				【単位数】	2単位
授業コード	12075	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	崎川 修				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
私たちの「いのち／暮らし」の成り立ちと、そこに横たわる諸問題を「ケア」の視点から見つめ、考える。医療や福祉、教育などの「専門的かかわり」においてのみならず、私たちの日常的な生活の中にある「ケア」の可能性について考えながら、参加者一人一人が自分自身それを自分自身の生き方に取り入れていく道を探求する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	現代社会の諸問題を自己の生と関係づけて理解し、その問題解決を具体的に考察することができる。			知識・技能／主体性	
2	自分の意見を主張し、相手を説得するだけでなく、他者の言葉に耳を傾けて学び、対話を通じて自分の思考を発見し、表現することができる。			思考・判断・表現力／主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	リアクションペーパー 30%			1	
2	グループワークへの参加 30%			1/2	
3	期末レポート 40%			1	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. ケアという視点 3. 「LIFE=いのちと暮らし」の問題圏 4. 「ケアの地図」をつくる(ワーク) 5. 発表① 6. 「育つ」: こどもを考える 7. 「あそび」を考える(ワーク) 8. 発表② 9. 「働く」: おとなと生活者の視点 10. 「社会のかたち」を考える(ワーク) 11. 発表③ 12. 「生きる」: いのちを見つめる 13. 「リビングウィル」を考える(ワーク) 14. 発表④ 15. まとめ: 他者と共に歩む生へ 					

<p>定期試験 期末レポートを提出してもらおう。内容については授業内で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）予定されたテーマについて、ネット上のニュースや文献などを調べ、自分の関心や疑問点などをまとめておく。（30分） （復習）授業で課されたリアクションに記入した内容を振り返り、説得力が十分あるかどうかさらに考察を深める。（30分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <参考書等> プリント資料を随時配布する。</p>
<p>オフィスアワー 授業内で指示する。質問や相談は随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 sakikawa@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員100名。 ・希望者多数の場合は、初回の授業時までに抽選を行う。結果はmanabaにて通知する。 ・本科目は講義だけではなく、テーマについての参加者からのフィードバックを交えて進められる予定である。またグループワークやディスカッションも取り入れる。詳しいプログラムは受講者数に応じ、相談して決定する。 ・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、単位を与えない場合がある。 ・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、単位を与えないので注意すること。

日本語表現I				単位数	2単位
授業コード	12145	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>四季のめぐる自然を豊かに感じとる言葉、自分の人生を支える言葉、自分と他者をつなぐ言葉、そうした日本語表現の言葉の力を養うことをめざす。そのために、まず歳時記を使って自然を豊かに表現できる日本語を磨き、俳句を作る。次に、創造的な表現について学び、自分の人生を支える言葉を探り、詩やエッセイを書く。そして、自分と他者をつなぐ言葉の技術を学び、手紙を書く。さらに、論理的な文章表現の技法を学び、自分が最も他者に薦めたい本のブックレポートを書く。そうした文章表現の実作を試み、それを授業の中で発表し、評価しあうことで、文章表現力を養うことを目的とする。また、「読むと書く」をテーマに批評家、随筆家で詩人の若松英輔氏の特別講義を受ける。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 歳時記を使って自然を豊かに表現できる日本語を磨き、俳句を作ることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	2. 自らの感受性を開花させ、創造的な表現で詩やエッセイを作ることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	3. 正確で礼儀にかなった表現と形式で相手に思いを伝えられる手紙を書くことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	4. 論理的な文章表現の技法を理解し、ブックレポートを書くことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
5	5. 授業の内容をまとめ、他者の発表を聞き、意見を述べるができる。			思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	○受講態度・リアクションペーパー…30%			5	
2	○授業中の課題の作成と発表…40%			1/2/3	
3	○期末レポート…30%			4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 歳時記を読む(春)・俳句について学ぶ 3. 詩を読む・詩について学ぶ 4. 春の句会を行う(俳句の合評会) 5. 詩を発表する 6. 手紙の書き方を学ぶ 7. 歳時記を読む(夏)・手紙の挨拶文を発表 8. エントリーシートの自己PRの書き方を学ぶ 9. 自己PRを発表 10. エッセイの書き方を学ぶ 11. エッセイを発表する 12. 特別講義「読むと書く」(講師:若松英輔) 13. 論理的文章およびブックレポートの書き方を学ぶ 14. 夏の句会を行う(俳句の合評会) 15. まとめ・講評・合評 					

定期試験
期末レポート（授業中に課題は指示）
試験のフィードバックの方法
期末レポートも含めて提出作品について、最後の授業で講評する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で、次回までにやってくる課題を出すので、準備をすること（2時間）。 ・発表した原稿は最後にまとめて提出してもらうので、発表後もさらに推敲を加えて作品を仕上げる（2時間）。
必携書（教科書販売）
<p><必携書></p> <p>速水博司『大学生のための文章表現入門』（蒼丘書林）</p> <p>若松英輔『特別授業「自分の感受性くらい」』（NHK出版）</p>
必携書（教科書販売以外）
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示。質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
<p>○授業が一方通行にならないように毎回、意見・質問等を書いたリアクションペーパーを提出してもらうので、主体的に臨むこと。</p> <p>○日本語の豊かな表現力を修得することをめざして多くの課題を出し、その発表をしてもらうので、積極的に取り組む受講態度が必要。</p>

日本語表現II [a]				単位数	2単位
授業コード	12150	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	小林 修典				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>「小論文ワークショップ」では、自らの考えや意見を、明瞭かつ正確に、相手に伝える文章の書き方を学び、実際に小論文を書いていく。その過程で、自らの意見を客観的に見つめ、読み手の視点も考慮できるようになることが期待されている。論文を書く技術だけでなく、書くための準備や計画の立て方を学ぶ。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1 与えられたテーマで小論文(600字程度)を完成できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	2 自ら選んだテーマで小論文(800字程度)を完成できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	平常点(授業時に提出する課題:指定されたテーマでの600字の小論文) 40%			1/2	
2	学期末に提出する小論文(自由課題 800字 試験に相当) 60%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I インTRODクシヨン					
1 読みやすい文章とは					
II 小論文ワークショップ (以下は小論文のトピック)					
2 環境問題					
3 少子化					
4 男女共同参画社会					
5 ワークライフバランス					
6 外国人労働者の受入れ					
7 教育格差					
8 日本の農業					
9 高齢化社会					
10 食の安全					
11 スポーツ					
12 グローバル化					
13 児童福祉					
14 国際関係					
III まとめ					
15 自由課題の発表					

<p>定期試験 定期試験期間中に小論文（800字程度）を提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 添削し、後日返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・学生は毎回、あらかじめ与えられたテーマにそって考えをまとめ、600字の論文を書く。（4時間） ・復習として、論文への批評やコメントを検証する。（30分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） 必要に応じて、印刷物を配布する。</p>
<p>オフィスアワー オフィスアワーは授業中に指示する。</p>
<p>連絡先 shusuke@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>1 授業の目的 1) 授業予定一覧に掲げられたテーマについて論文を書くが、この授業の目的は、テーマについて知識を得たり、理解を深めることではない。論文を書く方法を学ぶことである。テーマはあくまでも、話題にすぎない。 2) この授業で学ぶ論文のスタイルは、主として、社会科学の分野でのレポートや学術論文に求められるものである。したがって、随筆などの文学的文章は対象としない。客観的視点での論理的な文章の展開方法や、それにふさわしい文章表現法を学ぶ。 3) 独創的なスタイルではなく、論文としての約束事に従った文章を書く。論文の「型」の習得を目指す。</p> <p>2 授業の進め方 1) 学生は、毎回、定められたテーマに関する600字の小論文、または課題を提出する。 2) 提出された小論文は、毎回、クラスで批評する。</p> <p>3 授業の登録について 定員は10名とする。定員を超える希望者がいた場合は、第1回めの授業で抽選を行う。 それ以降の新規登録は受け付けない。</p>

日本語表現II [b]				単位数	2単位
授業コード	12155	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	小林 修典				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>「小論文ワークショップ」では、自らの考えや意見を、明瞭かつ正確に、相手に伝える文章の書き方を学び、実際に小論文を書いていく。その過程で、自らの意見を客観的に見つめ、読み手の視点も考慮できるようになることが期待されている。論文を書く技術だけでなく、書くための準備や計画の立て方を学ぶ。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1 与えられたテーマで小論文(600字程度)を完成できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	2 自ら選んだテーマで小論文(800字程度)を完成できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	平常点(授業時に提出する課題:指定されたテーマでの600字の小論文) 40%			1/2	
2	学期末に提出する小論文(自由課題 800字 試験に相当) 60%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I インTRODクシヨン					
1 読みやすい文章とは					
II 小論文ワークショップ (以下は小論文のトピック)					
2 環境問題					
3 少子化					
4 男女共同参画社会					
5 ワークライフバランス					
6 外国人労働者の受入れ					
7 教育格差					
8 日本の農業					
9 高齢化社会					
10 食の安全					
11 スポーツ					
12 グローバル化					
13 児童福祉					
14 国際関係					
III まとめ					
15 自由課題の発表					

<p>定期試験 定期試験期間中に小論文（800字程度）を提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 添削し、後日返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・学生は毎回、あらかじめ与えられたテーマにそって考えをまとめ、600字の論文を書く。（4時間） ・復習として、論文への批評やコメントを検証する。（30分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） 必要に応じて、印刷物を配布する。</p>
<p>オフィスアワー オフィスアワーは授業中に指示する。</p>
<p>連絡先 shusuke@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>1 授業の目的 1) 授業予定一覧に掲げられたテーマについて論文を書くが、この授業の目的は、テーマについて知識を得たり、理解を深めることではない。論文を書く方法を学ぶことである。テーマはあくまでも、話題にすぎない。 2) この授業で学ぶ論文のスタイルは、主として、社会科学の分野でのレポートや学術論文に求められるものである。したがって、随筆などの文学的文章は対象としない。客観的視点での論理的な文章の展開方法や、それにふさわしい文章表現法を学ぶ。 3) 独創的なスタイルではなく、論文としての約束事に従った文章を書く。論文の「型」の習得を目指す。</p> <p>2 授業の進め方 1) 学生は、毎回、定められたテーマに関する600字の小論文、または課題を提出する。 2) 提出された小論文は、毎回、クラスで批評する。</p> <p>3 授業の登録について 定員は10名とする。定員を超える希望者がいた場合は、第1回めの授業で抽選を行う。それ以降の新規登録は受け付けない。</p>

日本語表現III				単位数	2単位
授業コード	12168	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	小林 修典				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、1) 学術的な論文を正確に、批評的に読む読解する力と、2) 読み取った内容を要約し、文章として表現する力を身につけることを目的とする。 ・実践練習を通して、読解と要約の技術をみがく。要約の技術には、引用方法や、書誌情報の扱いも含まれる。 					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	論文を正確に読むことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	読み取った内容を文章として表現することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の課題 50%			1/2	
2	期末レポート 50%			1/2	
3				1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> ① 論文の構成(1) 構成の理解 ② 論文の構成(2) 段落分けの実践 ③ 段落ごとの読解・要約から全体の要約へ ④ 読解・要約の実践 (1) ⑤ 読解・要約の実践 (2) ⑥ 論文の文体 ⑦ 論文の文体 (間違えやすい例) ⑧ 読解・要約の実践 (3) ⑨ 読解・要約の実践 (4) ⑩ 読解・要約の実践 (5) ⑪ 具体例の読解と要約 ⑫ 読解・要約の実践 (6) ⑬ 批評的読解と要約 ⑭ 読解・要約の実践 (7) ⑮ 書評・ブックレポート 					

<p>定期試験 期末レポートを期末試験期間中に提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 レポート提出後に講評する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・予習として、課題にとりくむ。（1時間～2時間） ・毎回の授業内容を復習し、理解を深める。（30分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <参考書等> プリント等を授業中に配布</p>
<p>オフィスアワー 授業中に指示する。</p>
<p>連絡先 shusuke@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>1 授業の目的 この授業で扱う論文は、主として、社会科学の分野の学術的な論文である。文学作品を分析する論文や、随筆などの文学的文章は対象としない。</p> <p>2 授業の進め方 上掲「授業予定一覧」で「読解・要約の実践」と示されている授業においては、各学生が課題として行った要約を、クラスで批評する。</p> <p>3 授業の登録について 定員は10名とする。定員を超える希望者がいた場合は、第1回めの授業で抽選を行う。それ以降の新規登録は受け付けない。</p>

日本語表現V				単位数	2単位
授業コード	12185	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く(聞く)」と「伝える(話す)」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。</p> <p>全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどで「聴く(聞く)」「伝える」の演習を行う中で、学生自身が課題とした点や学んだ要素を日常の中で活かす習慣づくりの機会をもつ。</p> <p>これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。</p> <p>授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	自分自身の「コミュニケーション」(人との関わり方)の状態を知ることができる			思考・判断・表現力/主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して1分~1分30秒で簡潔に口頭で伝えることができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	インタビューや日常生活の中で、他者の話を聞く場面において、「傾聴」のポイントを実行できる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	読み手、聴き手に関心を持たせる「タイトル」「キーワード」「構成」作りができるようになる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	多種多様な人々に伝わる『やさしい日本語』の存在と意義を説明し活用のきっかけを持つことができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度(15%)			1/2/3/4/5	
2	ミニレポート提出(テーマは授業内で伝える)(15%)			1/3/4	
3	「身近なく仕事人」にインタビュー」「おすすめの岡山」『やさしい日本語』一連の課題(35%)			1/2/3/4/5	
4	口頭発表による定期試験(14回目の授業で試験テーマを発表)(35%)			1/2/3/4/5	
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、番組制作の経験、現在はコミュニケーション・マナー講師、フリーアナウンサーとして、行政、企業、医療、教育機関、個人に対しての人財育成に携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容の情報共有~「日本語表現」を学ぶということ (森田) 2. 伝える力・聞く(聴く)①~自己紹介① (森田) 3. 伝える力・聞く(聴く)②~自己紹介② (森田) 4. 非言語がもつ力~表情・しぐさ・身体表現などがもつ影響力とは (森田) 5. 「身近なく仕事人(びと)」にインタビュー」①~準備、依頼の仕方 (森田) 6. 「身近なく仕事(びと)」にインタビュー」②~相手の話を引き出す質問 (森田) 7. 書く力・読む力~新聞、情報誌から見る「伝わる文章」 (久保田) 8. 「おすすめの岡山」を書く①~文章作成 (久保田) 9. 「おすすめの岡山」を書く②~口頭発表 (久保田) 10. 「身近なく仕事人(びと)」にインタビュー」③~進捗確認、インタビューの課題点を探る (森田) 11. 「おすすめの岡山」を書く③~まとめ (久保田) 12. 『やさしい日本語』とは①~日本語表現と『やさしい日本語』の共存 (森田) 13. 『やさしい日本語』とは②~『やさしい日本語』基本用語の言い換え書き換え演習 (森田) 14. 「身近なく仕事人(びと)」にインタビュー」④~口頭発表 (森田) 15. 定期試験(口頭発表) 16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど 					

定期試験 15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「おすすめの岡山」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 <ul style="list-style-type: none"> ・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること。 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分）。 ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）。
必携書（教科書販売） なし
必携書（教科書販売以外） <参考資料> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でプリントを配布する ・『やさしい日本語』の授業における参考資料として、岡山県国際課「やさしい日本語」を参照すること。 岡山県のホームページ→国際課→『やさしい日本語』→「やさしい日本語の手引き」で検索。 授業時に、「やさしい日本語の手引き」を配布する
オフィスアワー 質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先 s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない。 ・マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明そのほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること。 ・定員は60名とする。

日本語表現VI				単位数	2単位
授業コード	12195	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く(聞く)」と「伝える(話す)」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどを行う。日頃使っている言葉や敬語表現の棚卸し、幅広い書籍を通しての言葉や表現の発見、電話対応での言葉の選び方を通して、「聴く(聞く)」「伝える」の演習を繰り返す。</p> <p>これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	自分自身の「コミュニケーション」(人との関わり方)の状態を知ることができる			思考・判断・表現力/主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して「構成法」を使い簡潔に伝えることができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	短い文章で要点や思いを端的に伝える「キーワード」が作れるようになる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	他者や事柄などを授業や日常の中で調べ、また聞く場面において、「傾聴」「質問」の要点を実行できる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	様々な場面で質問や意見を問われた際に、臨機応変に対応する練習ができるようになる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度(15%)			1/2/3/4/5	
2	ミニレポート提出(テーマは授業内で伝える)(15%)			1/3/4	
3	「他己紹介」「ブックリストの交換」「フリートーク」一連の課題(35%)			1/2/3/4/5	
4	口頭発表による定期試験(14回目の授業で試験テーマを発表)(35%)			1/2/3/4	
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、番組制作の経験、現在はコミュニケーション・マナー講師、フリーアナウンサーとして、行政、企業、医療、教育機関、個人に対しての人財育成に携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容の情報共有～「日本語表現」を学ぶ意義と目的 (森田) 2. 伝える力と構成力～自己紹介を通して、リソース、組み立て、アピールポイントの考察 (久保田) 3. 聞く(聴く)力①～「聴く」「受容」「承認」の段階とは (森田) 4. 聞く(聴く)力②～「質問の種類」 (久保田) 5. 他己紹介①～他者を取材するポイントと他者取材 (森田) 6. 他己紹介②～他者の魅力をアピールする(口頭発表) (森田) 7. 他己紹介③～他者の魅力を紹介する(文章表現) (久保田) 8. 「ブックリスト交換」①～準備、リストの作り方 (森田) 9. 言葉づかい～日常の言葉づかい、敬語、クッション言葉、NGワード (森田) 10. 電話対応～「電話のかけかた」「受け方」から見る日本語表現 (森田) 11. フリートーク①～当日に提示されたテーマを用い「何が話しにくかったか」の考察 (森田) 12. フリートーク②～情報収集の引き出しの作り方 (久保田) 13. ブックリスト交換②～リスト交換をし、好きな本を伝えあう、聞きあう (森田) 14. ブックリスト交換③～ブックリストについての口頭発表 (森田) 15. 定期試験(口頭発表) 16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど 					

定期試験 15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「他己紹介」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 <ul style="list-style-type: none"> ・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること。 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）。 ・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分）。 ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）。
必携書（教科書販売） 使用しない
必携書（教科書販売以外） <参考資料> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でプリントを配布する
オフィスアワー 質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先 s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない。 ・マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明そのほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること。 ・定員は60名とする。

共生と文化を考える				単位数	2単位
授業コード	12896	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	小野 真由美				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>本授業の目的は、文化人類学の基礎的な考え方やものの見方をおして、共生と文化について考えることにある。様々な差異をもつ人々と共に生きるということについて考え、共に生きていくために必要なもののみかた・視点を得るには、まず、自分自身が慣れ親しんできた文化や習慣、価値観など、自分にとって「当たり前」とされる行動様式や前提となるものの見方について問い直すことが必要となる。</p> <p>本授業は、医療や介護など「他者へのケア」に関する領域、ジェンダーや身体的な差異をめぐる「生の多様性」に関する領域、さらに移民や難民など「グローバルな人の移動」に関する領域のテーマを扱い、共生と文化について考察する。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	世界の様々な国や地域の事例を取り上げ、文化的差異をもつ人々の日常的な実践や問題を理解し、異文化を相対的に捉えることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	様々な差異をもつ人々がひとつの世界に共に生きていくことをめぐる現代的状況とその課題について考察し、自分の意見を述べるができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み 20%			1/2	
2	課題 30%			1/2	
3	レポート 50%			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
<p>日本語以外の言語による授業</p> <p>授業予定一覧</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 文化人類学における文化の捉え方 3. 国際コミュニケーションと異文化理解 4. 他者へのケアから考える①オセアニアの民間医療 5. 他者へのケアから考える②北欧の高齢者介護 6. 他者へのケアから考える③インドの不妊治療 7. 他者の語りから理解するー不妊と代理出産をめぐって 8. 生の多様性から考える①タイの「カトゥーイ」 9. 生の多様性から考える②若者文化、コスプレ、身体変工 10. 生の多様性から考える③日本のLGBTQ 11. 多文化主義と多文化共生ーホーム、アイデンティティ、人権 12. グローバルな人の移動から考える①無国籍 13. グローバルな人の移動から考える②難民 14. グローバルな人の移動から考える③多文化共生の課題 15. 総括-ひとつの世界にともに生きることを学ぶ 					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法 授業中のコメントへの応答によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業中に紹介された参考資料を読むこと、授業中に出された課題に取り組むこと、授業で扱う内容に関連する新聞記事や文献などを検索し、様々な意見に触れること（2時間）。
必携書（教科書販売） なし
必携書（教科書販売以外） 必携書・参考図書等は授業中に説明する。また、授業中に扱う文献はプリントで配布する。
オフィスアワー 月曜日3時限、或いはアポイントメント。
連絡先 mayumiono@m.ndsu.ac.jp
留意事項 受講希望数が定員を超えた場合は、第1回の授業で抽選を行う。定員は50名とする。英語英文学科の学生で、International Communication Seminar I [e], II [e]の履修を希望する学生、および履修中の学生は、本科目の履修を推奨する。

自立力育成ゼミI [a]		単位数	2単位
授業コード	12931	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2
		開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	Christopher Creighton		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
本授業の概要			
This course will review key concepts in "Western Civilization" at a level typical of a seminar class typical of a North American university. The key concepts will be drawn from all disciplines and feature topics based on history, philosophy, science, engineering, education, sociology, and art selected from the 3,000 year span during which the "West" has emerged as an idea. Additionally, students will be asked to consider the sustainability of the "West" in light of the multiple environmental, economic, and social challenges that have emerged. Topics will be linked through the United Nations Sustainable Development Goals 2030 (SDG). Specific attention will be drawn to the activities of the Sisters of Notre Dame and their efforts throughout the world to bring justice and equality to the victims of the "West". Students will work outside of class time to establish, maintain, and develop connections with their peers at other institutions in the worldwide Notre Dame network.			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Infer an author's intention.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	Understand and integrate conflicting opinions.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	Offer their opinions and be able to support them with evidence during discussion.	知識・技能/思考・判断・表現力	
4	Consolidate their understanding through logical, evidence-based essays.	知識・技能/思考・判断・表現力	
5	Link the study topic with broader issues.	知識・技能/思考・判断・表現力	
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	5 written summaries: 20%	1/2/4/5	
2	5 recordings: 20%	1/2/5	
3	Participation: 40%	2/3/5	
4	Project: 20%	2/3/5	
5			
実務経験のある教員による科目			
実務経験の授業への活用方法			
The instructor has language teaching experience in a wide variety of settings including Japan's public high school and elementary school system. This experience can and will be shared while teaching the course.			
日本語以外の言語による授業		English	
授業予定一覧			
1. Geography: Mapping our lives 2. Geography: Mapping our lives 3. Geography: Mapping our lives 4. Archaeology: Our Ancestors - Where, What, and Whom were they? 5. Archaeology: Our Ancestors - Where, What, and Whom were they? 6. Archaeology: Our Ancestors - Where, What, and Whom were they? 7. Philosophy: Decision making 8. Philosophy: Decision making 9. Philosophy: Decision making 10. Architecture: Tradition and Metaphor 11. Architecture: Tradition and Metaphor 12. Architecture: Tradition and Metaphor 13. Innovation: What is it and How does it happen? 14. Innovation: What is it and How does it happen? 15. Innovation: What is it and How does it happen?			

定期試験
The final exam is an in-class essay on the themes of the course.
試験のフィードバックの方法
Feedback will be provided after each assignment.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Materials will be provided by the instructor.
必携書（教科書販売）
Materials will be provided by the instructor.
必携書（教科書販売以外）
N/A
オフィスアワー
Wednesdays: 13:00-14:30 Location: 713L Video conferencing is available on request.
連絡先
c. j. creighton@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This is an ENGLISH only course however it is open to students from any department who are willing to make an effort and communicate. Students need to demonstrate perseverance, adaptability, and determination in what is intended to be a new learning experience.

自立力育成ゼミI [b]		単位数	2単位
授業コード	12932	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2
		開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	Christopher Creighton		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
本授業の概要			
This course will review key concepts in "Western Civilization" at a level typical of a seminar class typical of a North American university. The key concepts will be drawn from all disciplines and feature topics based on history, philosophy, science, engineering, education, sociology, and art selected from the 3,000 year span during which the "West" has emerged as an idea. Additionally, students will be asked to consider the sustainability of the "West" in light of the multiple environmental, economic, and social challenges that have emerged. Topics will be linked through the United Nations Sustainable Development Goals 2030 (SDG). Specific attention will be drawn to the activities of the Sisters of Notre Dame and their efforts throughout the world to bring justice and equality to the victims of the "West". Students will work outside of class time to establish, maintain, and develop connections with their peers at other institutions in the worldwide Notre Dame network.			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Infer an author's intention.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	Understand and integrate conflicting opinions.	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	Offer their opinions and be able to support them with evidence during discussion.	知識・技能/思考・判断・表現力	
4	Consolidate their understanding through logical, evidence-based essays.	知識・技能/思考・判断・表現力	
5	Link the study topic with broader issues.	知識・技能/思考・判断・表現力	
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	5 written summaries: 20%	1/2/4/5	
2	5 recordings: 20%	1/2/5	
3	Participation: 40%	2/3/5	
4	Project: 20%	2/3/5	
5			
実務経験のある教員による科目			
実務経験の授業への活用方法			
The instructor has language teaching experience in a wide variety of settings including Japan's public high school and elementary school system. This experience can and will be shared while teaching the course.			
日本語以外の言語による授業		English	
授業予定一覧			
1. Philosophy: The limits of knowing 2. Philosophy: The limits of knowing 3. Philosophy: The limits of knowing 4. History: The Vikings 5. History: The Vikings 6. History: The Vikings 7. Biology: Mass Extinctions 8. Biology: Mass Extinctions 9. Biology: Mass Extinctions 10. Medicine: Progress and Ethics 11. Medicine: Progress and Ethics 12. Medicine: Progress and Ethics 13. Economics: Containerization and the Global World 14. Economics: Containerization and the Global World 15. Economics: Containerization and the Global World			

定期試験
The final exam is an in-class essay on the themes of the course.
試験のフィードバックの方法
Feedback will be provided after each assignment.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Materials will be provided by the instructor.
必携書（教科書販売）
Materials will be provided by the instructor.
必携書（教科書販売以外）
N/A
オフィスアワー
Wednesdays: 13:00-14:30 Location: 713L Video conferencing is available on request.
連絡先
c. j. creighton@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This is an ENGLISH only course however it is open to students from any department who are willing to make an effort and communicate. Students need to demonstrate perseverance, adaptability, and determination in what is intended to be a new learning experience.

自立力育成ゼミII		単位数	2単位
授業コード	12936	科目ナンバリング	16070-2340-o2
開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期		
担当者氏名	Christopher Creighton		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
本授業の概要			
本演習では、本学での事前学習を経てCatholic University of Korea が主催するKorea 語研修に参加する。Korean の授業やその他の社会・文化的活動を通してKorean力の向上・習得を図り、日本の文化を伝える力を養うとともに、Koreaの文化・習慣や伝統についても理解を深める。現地での直接体験を通じてその国の生きた言葉を学んでいく。			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Korean 研修のための事前研修を通して、留学に向けての準備を十分に整えることができる。	知識・技能	
2	現地の学習及び生活において様々な事柄に積極的、主体的に取りこむことにより、日常レベルで支障なくコミュニケーションを取ることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	留学経験で得られたことを客観的に見つけ、自身の経験を今後の留学等にどのように生かせるかを建設的に考えることができる。	主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	事前学習での取り込み：20%	1	
2	韓国語研修の取り込み：70%	2	
3	最終レポート：10%	2/4/5	
4			
5			
実務経験のある教員による科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業		English-日本語	
授業予定一覧			
1. 韓国:日常生活 2. 韓国:日常生活 3. 韓国:日常生活 4. 韓国人:友達になる? 5. 韓国人:友達になる? 6. 韓国人:友達になる? 7. 韓国と日本:貴方は何が出来る? 8. 韓国と日本:貴方は何が出来る? 9. 韓国と日本:貴方は何が出来る? 10. 韓国と日本の歴史:責任は? 11. 韓国と日本の歴史:責任は? 12. 韓国と日本の歴史:責任は? 13. 留学の間:健康 14. 留学の間:健康 15. 留学の間:健康			

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外）
オフィスアワー 水曜日：13:00-14:30 713L Video conferencing 可能。
連絡先 c. j. creighton@m.ndsu.ac.jp
留意事項 第1期の事前学習一研修にすべて出席すること。事前学習に参加出来ない者は、夏休みに行われる韓国語の研修に参加できません。なお、登録ごキャンセルは、キャンセル料がかかるので注意すること。海外語学研修が目的であるから、軽い気持ちでの参加は控える。自分が何のために参加し、研修にはどうなっていることを目的とするのが等を熱意した上での参加を望む。

自立力育成ゼミIII				単位数	2単位
授業コード	12940	科目ナンバリング	160Z0-2340-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	小林 修典				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>この授業のテーマは、「英語論文の読解と要約」である。英語で書かれた論文を正確に理解し、その内容を日本語で、批評的に要約できる能力を育むことを目指す。英語そのものの学習を目的とするのではなく、英語を情報収集のツール(道具)として使いこなす技術を見がくことを目的としている。前提となるべき語彙力を増強し、論文特有の表現方法の理解も深める。また、統計資料や図表にも注目する。このような技能を、実践的な練習を繰り返すことで身につけていく。大学院進学や留学の準備としての役割も果たす。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	正確に論文を読むことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	読み取った論文の内容を日本語で批評的に要約することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	論文読解に必要な語彙力を増強する。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	平常点 (授業時に提出する課題および毎回の語彙テスト) 50%			1/2/3	
2	期末レポート(日本語) 50%			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 インTRODクシヨン 2 論文の構成と表現 読解の方法 ① 3 論文の構成と表現 読解の方法 ② 4 実践練習 ① 心理学 5 実践練習 ② 社会学 6 実践練習 ③ 児童福祉 7 実践練習 ④ 国際関係 8 学生による読解・要約のデモンストレーション ① 指定課題 9 学生による読解・要約のデモンストレーション ② 指定課題 10 実践練習 ⑤ 人間生活 11 実践練習 ⑥ 女性学 12 実践練習 ⑦ 文化比較 13 実践練習 ⑧ 経済学 14 学生による読解・要約のデモンストレーション ① 自由課題 15 学生による読解・要約のデモンストレーション ② 自由課題					
注 実践練習で扱う論文の分野は暫定的である。					

<p>定期試験 期末レポートを期末試験期間中に提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 レポート提出後に講評する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・予習として課題に取り組む。次回の教材となる論文を読んでおく。語彙力テストに備える。（60～90分） ・復習として、論文の要約を行う。（60分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） 必要に応じて指示する。また、授業中に印刷物を配布する。</p>
<p>オフィスアワー 授業時に指示する。</p>
<p>連絡先 shusuke@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> この授業で扱う論文は、主として社会科学の分野の学術的な論文である。文学作品を分析する論文や、随筆などの文学的文章は対象としない。アメリカなど英語文化圏の大学の「教養課程」で教科書や教材として使われるレベルの学術的な論文を扱う。 「概要」にもあるように、この授業では、英語そのものの学習を目的とするのではなく、英語を学問研究のために活用する技術の習得を目的としている。同時に、内容を把握し、自分のことばで説明できるような日本語の表現力も強化していく。 論文の内容理解には、論文でよく使われる言葉の理解が欠かせない。語彙力を増強するために、毎回、授業のウォーミングアップとして、10語を文章の中で使いこなすためのテストを行う。（この授業を通じて、少なくとも100語の語彙増強がはかられることになる。） この授業の定員は10名とする。定員を超える希望者がいた場合は、第1回めの授業で抽選を行う。それ以降の新規登録は行わない。

自立力育成ゼミⅣ				【単位数】	2単位
授業コード	12946	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	小林 謙一				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>本授業は、「食べることは生きること」をキーワードとして、「食」を生物学的、社会的、心理的、現代社会的な側面から、理解と思考を深める。また、「食」の問題と「情報」の問題の類似点を探り、その「解決点」を模索する。これらの考え方にに基づき、自ら課題を設定し、その課題に対して、情報を適切に収集・選択・整理し、プレゼンテーションやグループディスカッションを行う。その中で、集団の中で自らの意見を適切に表現できるようにする。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	・「食」について、様々な観点から思考ができるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	・「食」やそれを取り巻く「社会」に対して、適切な「問題意識」をもち、それに基づく「課題」設定能力を身につけることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3	・「課題」に取り組むための情報を適切に収集・選択したうえで、その情報を批判的に読み取る能力を身につけることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	・これらの「課題」をグループ内で発表し、議論・討論することで、集団の中で自らの意見を表現できるようになるとともに、多くの意見を集約し整理できる能力を身につけることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 30%			1/2/3/4	
2	課題 30%			1/2/3/4	
3	レポート 40%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「食」とはなにか? 3. 「食」を生物学的に考える 4. 「食」を栄養学的に考える 5. 「食」を心理的に考える 6. 「食」を歴史的に考える 7. 「食」を文化的に考える 8. 総合討論 (1) 「食べる」ことの意味について 9. 現代の「食」とメタボロームシンドローム 10. 現代の「食」と「情報」 11. 「食」とメタボと「情報」のメタボ 12. 現代の「食」と「疲労」 13. 現代の「食」と「こころ」 14. 総合討論 - 「食」の今日的な課題と未来への提言- 15. まとめ 					

定期試験 課題に対するプレゼンテーションとレポート
試験のフィードバックの方法 講義中やmanabaなどを通して、結果と講評を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 30分程度。毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書およびURLを紹介する。その内容をあらかじめ読んでおくこと。レポート課題では、それらの参考文献や授業の内容を整理したうえで、テーマに関してより多角的に、発展的な論述を作成してほしい。また、総合討論はグループによる発表を予定しているので、発表の準備などを協力して行なってほしい。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <参考書等> 授業で指示する
オフィスアワー 月曜日4限
連絡先 k4kobaya@post.ndsu.ac.jp
留意事項 ・毎回の課題があり、準備が必要である

自立力育成ゼミⅤ [a]				単位数	2単位
授業コード	12951	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	Thomas Fast				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
本授業の概要					
Students will learn about global citizenship and global issues via the Model United Nations while preparing for and during the Japan University English Model UN (JUEMUN) Conference. Students will learn to role-play delegates from different UN nations. They will learn about the roles of the UN in global affairs. They will research a global issue and how it affects the people of their assigned country, and the rest of the world. Delegates will gather in a UN committee to discuss the issue as assigned by JUEMUN and propose solutions in the form of draft resolutions. At the conference students will discuss these matters and negotiate with other delegates. Support will be given to the students to develop their negotiation and debating skills.					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Students can demonstrate an understanding of the relevant global issue and the UN			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	Students can demonstrate in-depth knowledge of other countries			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	Students can demonstrate critical and creative thinking skills			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	Students can demonstrate a development in their oral communication and negotiation skills through debate, discussion and collaboration			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	Students can demonstrate research and academic writing skills			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	Country/Issue Presentation 20%			1/2/3	
2	Position Paper 30%			1/2/3/5	
3	Formal Speech 20%			1/2/3/4/5	
4	Participation 30%			3/4	
5					
実務経験のある教員による科目			No		
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業			English		
授業予定一覧					
Week 1: Orientation Week 2: The United Nations Week 3: Researching the assigned topic Week 4: Researching the assigned topic Week 5: Country/Issue Presentations Week 6: Caucusing and Position Paper Writing Week 7: Position Paper Writing I Week 8: Position Paper Writing II Week 9: Resolutions and Amendments I Week 10: Resolutions and Amendments II Week 11: Debate and Negotiation Skills I Week 12: Debate and Negotiation Skills II Week 13: Formal and Informal Debate I Week 14: Formal and Informal Debate II Week 15: Informal Debate and Caucusing Strategies					

定期試験
Week 16: Final Position Papers due
試験のフィードバックの方法
Feedback will be given at the end of each assignment and on week 16
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
For each lesson students will be expected to do a vast amount of homework and be ready to discuss, debate, negotiate and collaborate in discussions.
必携書（教科書販売）
No textbook
必携書（教科書販売以外）
Materials will be provided by the instructor
オフィスアワー
Office hours will be announced at the first lesson. Students may also arrange appointments by email.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項

自立力育成ゼミV [b]				単位数	2単位
授業コード	12952	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	Thomas Fast				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
本授業の概要					
Students will learn about global citizenship and global issues while preparing for, and while participating, in the National Model United Nations program at which students will learn to role-play delegates from different UN nations and learn about the role of the UN in global affairs. They will research a global issue and how it affects the people of their assigned country, and the rest of the world. Delegates will gather in a UN committee to discuss the issue as assigned by NMUN, and propose solutions in the form of a draft and a resolution. At the conference, students will discuss these matters and negotiate with other delegates. Support will be given to the students to develop their negotiating and debating skills.					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Students can demonstrate an understanding of the relevant global issue and the function of the UN			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	Students can demonstrate in-depth knowledge of other countries			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	Students can demonstrate critical and creative thinking skills			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	Students can demonstrate a development in their oral communication and negotiation skills through debate, discussion and collaboration			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	Students can demonstrate their research and academic writing skills			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	Country / issue presentation 20%			1/2/3	
2	Position paper 30%			2/3/5	
3	Formal speech 20%			1/2/3/4/5	
4	Participation 30%			3/4	
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業			English		
授業予定一覧					
Week 1: Orientation Week 2: The United Nations Week 3: Researching the assigned topic Week 4: Researching your assigned topic Week 5: Country / issue presentations Week 6: Caucusing and position paper writing Week 7: Position paper writing I Week 8: Position paper writing II Week 9: Resolutions and amendments I Week 10: Resolutions and amendments II Week 11: Debate and negotiation skills I Week 12: Debate and negotiation skills II Week 13: Formal and informal debate I Week 14: Formal and informal debate II Week 15: Informal debate and caucusing strategies					

定期試験
Week 16: Final position papers due
試験のフィードバックの方法
Feedback will be give at the end of each assignment and on week 16
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
For each lesson students will be expected to do a vast amount of homework – at least 100–150 hours in preparation for the MUN event, and be ready to discuss, debate, negotiate and collaborate in discussions.
必携書（教科書販売）
No textbook
必携書（教科書販売以外）
Materials will be given by the instructor
オフィスアワー
Office hours are Tuesday 7-8
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This course is very demanding and students will be expected to do many hours of homework both before the class starts and for homework. Students will be expected to attend a Model UN event as part of their classwork.

自立力育成ゼミVI				単位数	2単位
授業コード	12955	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	村中 季衣、Bae Junsub				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
近くて遠い国と言われる韓国の「近さ」と「遠さ」を「わたし」という窓を通して理解していく。ソウルでの異文化交流を念頭に、毎回簡単な読む・聴く・話すトレーニングを取り入れながら、自分なりの問題意識を高めていく。現地実習終了後は、自分の目と肌で感じた韓国を伝え合い、今後あるべき日韓の関係づくりの提案を行う。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1、マスメディアやインターネットによって流される情報を単純に受け入れるのではなく、事実に基づいて正しく判断できる。			思考・判断・表現力	
2	2、自分独自の視点をもって日本以外の国の人々との関係づくりの手掛かりを持つ。			主体性	
3	3、現地での交流の手掛かりとなる簡単な韓国語会話ができるようになる			知識・技能	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	期末レポート：60%			1/2	
2	ディスカッションへの参加度：40%			2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
BaeJunsubは、内閣府主催の国家間青年親善交流事業における同行通訳及び招聘通訳の経験を活かし学生の初歩韓国語会話能力の習得(到達目標3)の達成を援助する。また、日韓連絡会議の実行委員および神戸市嘱託職員として日韓文化交流事業に携わっている経験を活かし、学生がそれぞれの課題を設定し学生に韓国の理解を進めるための手がかりを提供できる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 オリエンテーション・日本における韓国イメージの変遷 2 ハングル文字の読み方・書き方1、韓国の歴史と社会1 3 ハングル文字の読み方・書き方2、韓国の歴史と社会2 4 韓国語会話1・日韓関係1 5 韓国語会話2・日韓関係2 6 韓国語会話3・韓流と韓国1 7 韓国語会話4・韓流と韓国2 8 韓国語会話5・韓国の文化1 9 韓国語会話6・韓国の文化2 10 韓国語会話7・韓国の教育1 11 韓国語会話8・韓国の教育2 12 韓国語会話9・日本の中の韓国・韓国のなかの日本1(オンラインで韓国大学生との交流の可能性もあり) 13 韓国語会話10・日本の中の韓国・韓国のなかの日本2(オンラインで韓国大学生との交流の可能性もあり) 14 韓国語会話11・日韓共通の課題とその解決策の模索 15 学びの振り返り：わたしの中の「世界」はどう変わったか?					

<p>定期試験</p> <p>期末レポートに関しては15回目の授業に案内する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>レポートにコメントし返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>事前学習として授業中に配布した練習プリントおよび課題を次回授業までにすませておく。（1時間）</p> <p>事後学習として模範解答に従って、プリントの間違い部分のおさらいをする。（1時間）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>なし</p>
<p>必携書（教科書販売以外）</p> <p><必携書> 適宜、授業中に指示する。</p> <p><参考書等> 必要に応じて、印刷物を配布する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>オフィスアワーは授業中に指示する。</p>
<p>連絡先</p> <p>s8323@m.ndsu.ac.jp muranaka@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>感染防止対策をしっかりとったうえで授業に参加すること。 本授業は、はじめて韓国語を学習する学習者を対象とするものである。 人数が12人を超えた場合は、他大学との交流を考慮し、抽選となる。</p>

自立力育成ゼミVII				単位数	2単位
授業コード	12961	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>全国に13ある国立のハンセン病療養所のうち、長島愛生園と邑久光明園の2つが本学が位置する岡山県にあり、ひとつの自治体に2つの国立ハンセン病療養所があるのは岡山県だけである。近年、これらに香川県の大島青松園を加えた3園を世界文化・記憶遺産として登録しようとする運動がはじまった。その目的は、90年にわたるハンセン病患者隔離政策の歴史的記憶と療養所入所者たちの生きた証を次世代に継承するとともに、かれらの名誉回復を図り、偏見差別のない未来を切り拓こうとするものである。</p> <p>本科目では、この運動とも通底する、今なお続くハンセン病回復者（ハンセン病の病歴者・元患者）とその家族が経験してきたさまざまな被害の実際を学ぶ。そして、かれらと支援者らによる被害に対する闘いへの想いをみつめ、ハンセン病問題が今日になにを問いかけているのか考察していく。そのため授業は、各テーマとつながりの深い視聴覚教材（映画、ドキュメンタリー）をできる限り多く視聴しながら進められる。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	ハンセン病の病理学的特徴に偏ることなく、ハンセン病回復者とその家族に対する偏見差別を今日の問題として説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	自分とは異なる他者が置かれた状況について、他者の立場を踏まえて説明することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3	問題意識を持ち、授業および課題に積極的に臨むことができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4	自分の気づきや考えを他者に伝わるよう言語化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度およびディスカッション 20%			2/3/4	
2	リアクションペーパー 40%			1/2/4	
3	レポート 40%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
ハンセン病問題に関する市民活動に携わるなかで得た経験、示唆、人的ネットワークを活かし、日常生活のなかでハンセン病問題に関わることは決して特別なことではないことを示したい。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ①ントロダクション 2. ②ンセン病という疾病と患者たち 3. ③「国辱」論と強制隔離 4. ④歯を越えた日本のハンセン病政策 5. ⑤立ち上がった入所者たち 6. ⑥ンセン病国賠訴訟原告たちの訴え 7. ⑦「人間回復」を目指して 8. ⑧田植民地からの訴え 9. ⑨立ち上がった家族たち 10. ⑩ハンセン病家族訴訟原告たちの訴え 11. ⑪ 医師・僧侶 小笠原登からの問いかけ 12. ⑫ 講演①ハンセン病問題とわたし：宗教者からの問いかけ 13. ⑬ 講演②ハンセン病問題とわたし：法律家からの問いかけ 14. ⑭ 講演③ハンセン病問題とわたし：医療従事者からの問いかけ 15. ⑮ まとめ 					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法 メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）事前に資料やレジュメが配布された場合は読む。配布されなかった場合は講義で紹介された書籍を読む（30分）。 （復習）講義内容を確認、整理するとともに、自分が考えたことをメモに残す（30分）。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <参考書> 山陽新聞社編『語り継ぐハンセン病：瀬戸内3園から』山陽新聞社、2015 黒坂愛衣『ハンセン病家族たちの物語』世織書房、2019 佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020
オフィスアワー 質問、相談は随時メールで受け付けるが、必要に応じて面談の時間を指定する。
連絡先 okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・受講者を上限40人とするため、それを超える場合は4年生を優先とし、それ以外の学生は抽選とする。 ・コロナ禍による授業形式や特別講義講師の招聘への対応により、授業スケジュールに変更が生じる場合がある。 ・コロナ禍の状況によっては、希望者を募って実際に長島愛生園もしくは邑久光明園への訪問を企画したい。その場合は、土曜日に実施される可能性が高く、公共交通機関を利用した現地までの往復運賃が自己負担となる。また、参加者と非参加者とは、課題について異なる対応をとる。

自立力育成ゼミVIII				単位数	2単位
授業コード	12971	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	日下 紀子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
本授業の概要					
<p>社会の中で生きていくうえで、人は、自分の思いを他者に伝え、他者の思いを理解するというコミュニケーションを必要とします。より良いコミュニケーションと人間関係のためには、自分が何を感じ、何を思い、何を伝えたいのか、また相手は何を感じ、何を思い、何を伝えようとしているのか、自他の心について理解することが求められます。</p> <p>「大切なことは、目に見えないんだよ」と星の王子さまは言いました。心で探さないと見えないもの、心でしか見えないもの、心とは何かについて理解を深めるため、現代社会の心に関する資料や情報を各自適切に選択し、話題提供を行います。それに基づいて自由に討論することを通して、各自が感じ、考えることを適切に表現できるように取り組んでいきます。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	心の働きに対する基礎的な理解力を身につけ、多面的に説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	自他の心への関心を具体的に持ち、心を理解するための心的構えを身につけ、主体的に他者とコミュニケーションを図ることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3	現代社会を生きる「心」に関して、問題意識をもつことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	自分の意見を適切に表現、主張することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への主体的な取り組み・リアクションシート 30%			1/2/3/4	
2	課題(発表)中間レポート(800字程度 3回) 30%			1/2/3/4	
3	期末課題レポート 40%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わっている経験より、現代社会における心に関する問題について臨時的にとりあげ、多面的、多角的、多層的な理解をすすめる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・「心」とは何か 2. 無意識の発見と心の成り立ち 3. 心の発達と性格・パーソナリティについて 4. セクシャリティ(sexuality)について 5. ディスカッション① 6. 夢の働き 7. 不安とは 8. 感情(怒り)のコントロール 9. 日常生活と心の健康(あるいは特別講師による講義を予定) 10. ディスカッション② 11. 集団と対人関係における心理 12. 人とのかかわり方 13. 自分の気持ちを伝える:アサーション 14. ディスカッション③ 15. 総合討論・まとめ 					

定期試験 課題レポート
試験のフィードバックの方法 授業中に振り返りを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習） 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的、積極的に関心を持ち、各テーマに関する話題提供ができるように、文献にもあたるなどの準備をして授業に臨むようにしてください。（各1時間 総計15時間以上） （復習） 授業で体験したことは、各自、主体的に言語化するように努め、問題意識をもってさらに文献などを読み、理解を深めること。（各1時間 総計15時間以上）
必携書（教科書販売） 使用しない
必携書（教科書販売以外） <参考書等> 適宜授業中に紹介し、プリント等を授業中に配布する。
オフィスアワー オフィスアワーは、金4限目。
連絡先 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項 1. 主体的に授業に参加し、演習、討論では、積極的に自分の意見を述べることを求める。 2. 受講希望者が多い場合、抽選を行うので、第1回の授業（オリエンテーション）には必ず出席すること。 3. manaba folio を利用する予定であるので、各自リマインダー登録をしておくこと。 4. レポートは、課題レポートを含めて4回（800字程度3回、2000字程度1回）提出予定。 5. 2021年度は、外部講師による特別講義「自分たちに求められる被害者支援とは～誰かの笑顔に繋がる私の勇気～」を1回、今年度も企画予定であり、その際にはシラバスの順が変更になる可能性あり。

ディスカッションから社会を考える				単位数	2単位
授業コード	18600	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	濱西 栄司				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
サブタイトル：国連SDGs入門―「行動の10年」のためのサステナビリティの学び					
<p>本科目は、国連大学SDG大学連携プラットフォーム (https://ias.unu.edu/jp/sdg-up) が開発した1・2年生向けの一般教養科目である。SDGs実践に先駆的に取り組む全国の大学が協力して授業を展開し、サステナビリティに関する広い知識を身につけるとともに、SDGsの社会的、経済的、環境的、ガバナンスの側面の有機的関連性を見る視座や自主的かつ協動的に考える力を養う。SDGsの歴史的背景と日本の現状を理解したうえで、SDGsがもたらす変化と行動について事例から学びつつ議論することを通して、サステナビリティについて自分事として捉えることができる姿勢を涵養する。</p> <p>※本科目は、本学が参加する「国連大学SDG大学連携プラットフォーム」(SDG-UP:32大学)のSDGsカリキュラム分科会(幹事は清心・ICU・関学)において構築中の1・2年生向けの教養科目です。基本的に1年生の人向けにつくられていますので、難易度は低く、予備知識もありません。どの学部・学科の人でも安心して受講できます。小グループでの意見交換・ディスカッションが毎回入りますので、楽しく学べますし、他学科の人とも交流ができる授業です。</p> <p>※実践サポート：受講生の中で、SDGsのとりくみを実践している・していきたい人がおられたら、某企業の寄付金を用いてサポートします。</p> <p>※15回の授業：国連大学による導入部分(第1・2回)に続いて、第3～14回は【開発・国際】【環境・持続】【経済・投資】【外国・共生】【ジェンダー・人権】【参画・変革】をテーマとする各2回の授業から構成されます―2回のうち最初の授業はどちらかといえば社会に変化をもたらした事例の検討から、2回目の授業は理論的な内容から成ります。1回90分の授業は、45分ずつ前半と後半に分かれ、それぞれ動画部分(15分)とディスカッション等の部分(20分程度)から構成されます。全15回授業のファシリテートおよび第11回の講義は、濱西(地域連携・SDGs推進センター長/SDG-UP担当/現代社会学科)が行います。国連大学が学部向け授業に関わるのは初めてのことで、国内の大学がこれほど連携して構築する授業も日本初ですので画期的な授業です。2022年度はまだプロトタイプ(試作版)ですので、より多くの、また多様な受講生の皆さんからのフィードバック(感想やコメント)を期待しています。それらをもとに分科会で検討し、翌年度にむけてさまざまな修正を行っていく予定です。</p> <p>※なお授業の性質上、緊急事態宣言が出るような事態になれば、残念ながらオンライン(Zoomのブレイクアウトルーム機能)での実施に切り替えます。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	SDGsの歴史的背景と各ゴールの理論的背景を理解し、説明できる。			知識・技能	
2	SDGsの進捗状況、及び日本と他国の多様な主体の取り組みについて評価体制や方法を理解し、説明できる。			知識・技能	
3	SDGsの求める変化や行動について先進的取り組み事例を通して、その駆動要因を考察できる。			思考・判断・表現力	
4	地球と社会のサステナビリティについて自分事として内化し、その行動指針を表現することができる。			主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	討論等のアクティブラーニングへの参加：20%			3/4	
2	アサインメント：30%			1/2	
3	全体を振り返るエッセイ/ファイナル・レポート：50%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>1. 授業概要・イントロダクション</p> <p>2. 共通の前提 (UNU-IAS)</p> <p>【開発・国際】</p> <p>3. SDGsを考える―アフリカ地域と食料問題を中心に― (東京外国語大学)</p> <p>a. アフリカからSDGsを考える</p> <p>b. SDGs 目標2と食料への権利～アフリカの事例を中心に</p> <p>4. SDGsをめぐるグローバル・ガバナンス (国際基督教大学)</p> <p>a. 変わる多国間外交 【吉川元偉元国連大使】</p> <p>b. SDGsとコーポレート・ガバナンス</p> <p>c. 持続可能な開発の第4の柱論争とガバナンス</p> <p>【環境・持続】</p> <p>5. SDGs13と14に関連する学術活動としての気候科学と海洋科学 (北海道大学)</p> <p>a. 気候モデルってなに？</p> <p>b. 北極域の海洋科学</p> <p>6. SDGsの潮流とカーボンニュートラルの実践 (東京都市大学)</p> <p>a. サステナビリティ概念の歴史の変遷</p> <p>b. SDGsの本質</p> <p>c. 気候変動による影響はいくらか</p> <p>d. サーキュラーエコノミーで実現する脱炭素社会</p> <p>【経済・投資】</p> <p>7. SDGs と ESG投資 (上智大学)</p> <p>a. SDGs と ESG 投資</p> <p>b. 年金資金と社会課題解決</p> <p>c. 気候変動問題等と機関投資家</p> <p>d. 国連責任投資原則(PRI)とSDGs</p> <p>e. インパクト投資と社会的インパクトの評価</p> <p>f. インベストメント・チェーンにおける各経済主体の効果的な協働</p> <p>8. ヒトとヒト、ヒトとモノ、モノとモノのつながり (愛媛大学)</p> <p>a. SDGsのサプライチェーンとバリューチェーン</p> <p>b. LCAによる可視化のためのグループワーク</p> <p>c. LCAの振り返り</p>					

- 【外国・共生】
9. アジア（中国・韓国）と日本のSDGs活動を学ぶ（神奈川大学）
 - a. アジアの近隣諸国（中国、韓国、台湾など）で進められているSDGs活動事例分析
 - b. 日本（横浜と神奈川大学の事例）のSDGs活動との共通点と相違点分析
 10. 日本における移民・外国人の受入れとSDGs（関西学院大学）
 - a. 日本に住む外国人の特徴と「ビジネスと人権」の新潮流
 - b. 外国人労働者の子弟の教育と医療の改善に向けて
- 【ジェンダー・人権】
11. 行動と変化から学ぶ—SDG5実践編（ノートルダム清心女子大学）
 - a. 身近な問題から
 - b. 各地の男女共同参画基本計画から
 12. ジェンダー基礎論・組織を強くする評価「お茶大インデックス」から（お茶の水女子大学）
 - a. ジェンダー平等は17のゴールを横断する
 - b. ジェンダー・ダイバーシティと組織を強くする評価
- 【参画・変革】
13. 歴史文化遺産を通したESD（奈良教育大学）
 - a. ESDの概要
 - b. 歴史文化遺産を通したESDの実際
 14. 持続可能な未来を創る～わたしたちのシティズンシップ（東海大学）
 - a. 持続可能な未来への変革を導くのは誰か～現代社会における市民とその力
 - b. 市民による社会参画の意義と方法
 15. まとめ

定期試験

期末レポート

試験のフィードバックの方法

マナバフォリオの「掲示板」やGoogleクラスルームを用いて行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）各回の担当教員より事前に出される課題にとりくむこと（各回2-3時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書（教科書販売以外）

授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

メールによる質問、または金曜の12時30分～13時（臨時会議等で留守にしている場合があるので事前にEメールで予約すること）。
オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。

連絡先

hamanishi@post.ndsu.ac.jp

留意事項